

「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります」(1テモテ4:1)。

現在、偽キリスト教、「異端」と呼ばれる宗教団体が沢山あります。モルモン教(末日聖徒イエス・キリスト教会)、統一協会、エホバの証人(ものみの塔聖書冊子協会)などが至る所で蔓延っている訳ですが、上記の聖句にあるように、これは2000年前から聖霊によって預言されたことです。ペテロも似たような警鐘を鳴らしています。

「しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にもにせ教師が現れるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています」(2ペテロ2:1)。ここで特に注目すべき点は、異端が滅びをもたらすということです。福音の根本的なメッセージを変えてしまう異端は、神の人類に対する救いと、それに伴うすべての祝福を失わせてしまいます。

では、健全な教えと、滅びをもたらす異端を、どのように見分ければ良いのでしょうか。まず、健全な福音は、イエス・キリストが中心になっています。つまり、イエス様を救い主として、また神として崇めます。一方、異端のグループでは、キリストの神性が否定されて、キリスト以外のものに影響が帰されます。教祖が注目されたり、組織の実績が強調されたりします。

次に、健全な福音は、救われるための唯一の条件は信仰であるという、新約聖書の大原則を堅持します。それに対して、異端は必ず、行ないの必要性を主張します。信仰だけでは不十分で、救われるためには行ないもしなければならぬと教えます。伝道活動、組織のための奉仕、規則の厳守、集会への参加を続けられない限り決して救われない、ということになる訳です。言ってみれば、異端における福音は、優等生のための福音です。立派な者だけが救われるという話なのですが、これは明らかに、聖書の曲解です。聖書が終始一貫して述べているメッセージは、罪人が救われる、というメッセージです。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることをないためです」(エペソ2:8-9)。